

## 2019年度上期を終えて

会長 木村 高久

四月三十日に明仁天皇が退位し、翌五月一日から上皇とられました。また、同日に皇太子徳仁親王が第百二十六代の新天皇に即位され、元号が「平成」から「令和」に改元されました。「令和」とは、うるわしく平和な時代を生きていく願いが籠った元号とのことだそうです。その思いを受けて令和時代が平和で人々が幸せ溢れる時代であることを切望します。

さて、本会の上期は一月八日のホテル横浜ガーデンでの定期総会・新春発表会・新年祝賀会から始まりました。参加者の心は、会歌の一節のごとく「意気高し」でした。二月から七月は、重点行事の「会員による研究発表」を実施。いずれの発表も興味深い内容であり好評でした。四月には歴史散歩「早稲田の杜から神田川 春の庭園をめぐる」を開催し、49名が参加されました。参加者は美しい庭園や神田川の流れを堪能していました。

五月二十三〜二十四日にかけてバスツアー「辛酸と忍耐」若き日の家康をたどる遠州の旅を催しました。参加者43名で、その内初参加者が10名も加わり大いに盛り上がりました。

また会報「歴研よこはま第七十八号」を五月末に発行いたしました、多くの力作が掲載されています。

六月には松尾光先生をお招きし「コトバを創り、話したように記す―古代人の挑戦」をテーマとしたご講演をして頂きました。新鮮なテーマで、また理解しやすく話されましたので皆さん感動しておりました。

七月には新しい試みといたしましたPC教育（エクセルとパワーポイント）の臨時講座を開催し、16名の方が参加されました。

なお、上期七か月間の例会出席者は延べ719名、月平均102名と盛況で嬉しい限りです。以上のように上期の各行事は順調に執行することができました。これも偏に会員・役員の皆様のご支援・ご協力の賜物です。お礼申し上げます。

さて、下期の各行事推進では、会員の皆様にご満足いただけるよう努力を重ねてまいります。引き続きご支援・ご鞭撻をお願いいたします。